

オープンホスピタル	公文滉貴	2
オープンキャンパス開催報告	上甲浩道	2
泌尿器科なんでも相談会	濱口卓也	5
緩和ケアイベントのお知らせ		5
我が秘書自慢	看護部	8
	岡本充子	8

www.chikamori.com ● 高知市大川筋一丁目1-16 tel. 088-822-5231
発行●2018年9月25日 発行者●近森正幸 / 事務局●寺田文彦

医療安全相互訪問

近森オルソリハビリテーション病院 7月20日、31日 / 近森病院 9月6日

医療安全対策の質の向上を図ることを目的とし、
病院間の相互訪問を開始しました。

近森病院 医療安全委員会委員長
循環器内科部長 山本 哲史



他施設の医療安全管理者等
によるラウンドを受け入れ、
意見交換、及び評価を受け
た。
上2枚・オルソ病院
下2枚・近森病院



高知県内には17の医療安全対策加算1届出病院がありますが、それらを五つのグループに分け、近森病院は高知医療センター、高知赤十字病院と、近森オルソリハビリテーション病院は幡多けんみん病院、須崎くろしお病院と連携し、相互訪問をします。

相互訪問では、他施設の医療安全管理者等により各病院における現状について客観的視点で評価を受け、より安全な環境やシステムを再検討する機会となります。個々のグループは加算2

届出病院とも連携し、今後訪問を行う予定です。

この度、7月20日、31日に近森オルソリハビリテーション病院、9月6日には近森病院で相互訪問が実施され、それぞれの連携病院の医療安全管理者等にご来院いただき、評価していただきました。

これまで、近森リハビリテーション病院を含めた近森会グループ3病院内でも、お互いに情報を共有し、評価し、医療安全の質の向上に努めて来ましたが、今回、これらを含めた医療安全対策への取り組みを高く評価いただけました。また、取り組むべき課題も明瞭になり、非常に有意義なものであったと思います。

今回は評価される立場でしたが、我々が評価する立場になることもあります。その際には、欠点の指摘だけではなく、他施設での模範となる取り組みを学び、当院でも取り入れるべきものを多く吸収してきたいと思っています。

やまもと さとし

オープンホスピタルに参加しました

近森リハビリテーション病院

3階病棟西 看護師 公文 滉貴



近森リハビリテーション病院で、8月26日オープンホスピタルを開催しました。当日は中学生、高校生から医



療職を目指す専門学校の学生まで35名の参加がありました。

看護技術やリハビリ体験のブースがある中、私は肺をプリントしたTシャツを着て、嚥下・聴診のブースを担当しました。嚥下のメカニズムや呼吸音の聴診の仕方を参加者に説明し、聴診体験もしてもらいました。

私自身経験2年目で、まだまだ先輩に教えてもらうことが多く、これまで人に教える経験があまりありませんでした。中高生には専門用語を使わずにわかりやすく説明するよう意識しまし

たが、人に教えることの難しさを感じる場でもありました。

ふだん病棟で言語聴覚士が患者さんに実施している飲み込み評価試験について参加者に説明し、自分と一緒に体験しました。この体験は、他職種の理解を深めることにつながり、学びとなることも多く、とても良い経験となりました。

このオープンホスピタルをきっかけに中高生が医療職に興味をもってくれれば良いと思います。

くもん こうき

10月の歳時記

コスモス

近森病院8A病棟

看護師 出原 弘貴



秋桜の花名はスペイン人がメキシコから持ち帰ったことが始まりで美しいという意味のギリシャ語「kosmos」に由来します。

このことから、星が美しくそろう宇宙のことを「cosmos」とよび、また花びらが整然と並ぶこの花も「cosmos」と呼ぶようになったといわれています。

秋になると毎年、秋桜の写真を撮りに行くのが恒例となっています。

ではら ひろき



● 近森病院附属看護学校通信 30 ●

オープンキャンパス開催報告

近森病院附属看護学校は8月26日(日)に「平成30年度第1回オープンキャンパス」を開催しました。当日は保護者を含め53名の参加がありました。

本年10月の入学試験には新たに「社会人入学試験」枠を設けました。そのためか今回のオープンキャンパ

スでは社会人の方も多数参加され、個別相談コーナーでは教員や学生へ熱心に質問する姿が見られました。今回から新しい試みとして昼食にカレーを用意し、学生は参加者の方と一緒にランチを楽しみました。参加者からは「美味しかった」「食事をしながら学生の話が聞けてよかった」と好評でした。

今年度は、9月30日(日)と平成31年3月23日(土)にも開催します。より多くの方が看護師に興味を持ってもらえるよう、内容の充実を行っていきます。

(上甲 浩道)



資格取得してからの3年を振り返って……

近森病院感染対策室
感染管理認定看護師 主任 北村 美樹



感染管理認定看護師になって3年が経ちました。認定看護師を目指すまでは、看護師として自分の将来の姿を具体的にイメージすることができませんでした。

しかし、認定看護師の資格を取得し、感染管理の専従となってからは、これまでのように患者さんのベッドサイドでケアを実践する環境から一変し、サーベイランスや教育・啓発活動・相談対応や感染症発生時の対応など、専門職としてどんなことにも柔軟に対応する姿勢と、正しい情報やガイドラインを入手することを怠らず、職員が感染防止技術を適切に実践して行くために必要な支援や指導を行わなければな

らない環境になりました。

感染管理に関する経験や知識・技術もまだまだ十分とは言えない私が、頑張っている活動できるのもICT（感染対策チーム）のメンバーが、私の不足している部分をしっかりと補ってくれているからだと思っています。

感染管理は、認定看護師が一人頑張ってもできるものでなく、日頃からの感染予防に対する職員への意識付けと教育が重要です。どんなに研修会や勉強会を開催しても、職員一人一人の意識が変わり、行動変容に結びつかなければ効果が期待できません。

これらも決して安易な道ではではありませんが、ICTと共にコツコツと感

染管理認定看護師としての果たすべき役割を継続していきますので、皆様のご協力をよろしく申し上げます。

きたむら みき

西日本豪雨災害義援金募金

ご協力ありがとうございました。

平成30年7月西日本豪雨災害義援金募金、ご協力ありがとうございました。

発災より近森病院総合受付けなど計3カ所に募金箱を設置し、ご協力をお願いしていました。皆さまから集めたお気持ちは赤十字社を通じ被災地にお届けいたします。

私の趣味

踊ることが大好き

近森病院外来センター内科
看護師 今田 菜々



私の趣味は「踊る」ことです。保育園から高校卒業までほぼ毎年よさこいに参加していました。大学で高知を離れましたが、踊ることが好きだったのでダンス部に入部しストリートダンスと出会いました。仲間たちと一緒に自分たちのダンスを作り上げ、音楽のイメージを捉えて自己を表現できるダンスに夢中になりました。イベントの前になると、仲間たちと朝方まで練習に没頭してい

たことはいい思い出です。

高知に帰ってからは、高知の熱い4日間が忘れられず、毎年よさこいに参加しています。妊娠、出産、子育ての2年間は見る側で新鮮でしたが、踊りたいという気持ちは抑えられず今年の夏に2年ぶりの参加。息子がまだ小さいため不安はありましたが、旦那さんの協力もあり、楽しい夏を過ごすことができました。

練習中、2歳の息子が一番後ろで

鳴子を鳴らしながら一生懸命ついてきている姿を見て、来年は家族皆で参加したいと思いました。今年はダンスにも復帰したいと考えています。

どんな形であっても、踊る側と見る側みんなが一緒になって楽しさを共有できる「踊り」は私にとって必要不可欠です。これからも体力が続く限り踊ることを続けていきたいと思っています。

いまだ なな

多職種が研究報告



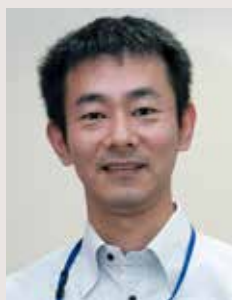
8月19日、「より良いチーム医療をめざして」をテーマに高知市春野ピアステージで開催しました。

近森会グループからは、看護師をはじめ、ソーシャルワーカー、管理栄養士、言語聴覚士、薬剤師、放射線技師、事務職などの多職種11名が、各々の研究を報告しました。

リレー エッセイ

耐雪梅花麗

総務部総務課 中脇 英孝



今年も広島東洋カープ（以下カープ）の快進撃が続き、本稿が配布される頃にはリーグ三連覇していることでしょう。地元熱は特に高く、“聖地”マツダスタジアムに近づくにつれ“赤度”が増加。球場近くのローソンも青ではなく赤色、またどのビジター戦でも本拠地と見間違ふほど多くのファンが連日詰め掛けています。万年Bクラスだったチームが三連覇できるとは…、隔世の感があります。

親会社を持たないカープは創設時（1950年）から滅亡の危機がいくつもあり、そのたびに球団とファンが一体となり戦ってきました。

1951年の大洋（現DeNA）に吸収合併されるとの報道時には、市民とともに立ち上がり資金集めのための後援会発足や樽募金などにより危機を回避したことも。

またいかに選手を鼓舞するか思案した応援団は、メガホン、トランペット、選手別応援歌、ジェット風船など日本プロ野球を代表する数々の応援スタイルを生み出しました。

タイトルの冒頭句（※1）は、2015年、大リーグ球団から

年棒20億円以上のオファーを蹴ってカープに入団した黒田博樹元選手（※2）の座右の銘。「苦しまずして栄光なし」とよく解釈されています。

高校の対戦時には黒田さんが登板も、僅か打者6人ほどで降板。試合中にも関わらず、黙々と走っていました。仕事に苦しい時があると、その光景とともにこの漢詩が浮かびます。

なかわき ひでたか

※1「ゆきにたえてはいかうるわし」西郷隆盛がイギリス留学する甥に送った漢詩
※2上宮高校～専修大学～カープ（1997-2007）～ロサンゼルス・ドジャース（2008-2011）～ニューヨーク・ヤンキース（2012-2014）～カープ（2015-2016）

▼写真では楽しさや臨場感が表せません……

ハッスル研修医
医師としての土台を

研修医 河本 マリナ

近森病院で研修医として働き始め半年を迎えようとしています。まだまだ目の前のことに圧倒される毎日を過ごしています。

学生のときは「早くバリバリ働きたい!」と思っていましたが、いざ研修医になると自分の勉強不足を痛感し、なかなか積極的に動けず、思い描いていた研修医像とは程遠い私です。笑顔がモットーの私ですが、余裕がなくなってしまうことも何度もありました。

高知に来て7年目になりますが、病院でも先生方やコメディカルの方々はいつでも相談しやすく、ご指導して下さい。高知の人の温かさをひしひしと感じています。病棟でも気軽に話しかけて下さる方が増え、本当に励みになっています。

半年間、研修が進むにつれて少しずつではありますが、一生懸命医師としての土台を築いています。キラキラ働く2年目の先輩、先生方は心から尊敬でき、自分の将来の姿を重ね、夢が膨らみます。日々笑顔を忘れず、向上心高く頑張っていきます。

こうもと まりな

診療科名変更
神経内科→脳神経内科

10月より神経内科が脳神経内科に変わります。「神経内科」の診療内容を一般の方に理解していただけるように、標榜診療科名を変更することが日本神経学会によって決定いたしました。この変更により、今後は脳・神経の疾患を内科的専門知識と技術をもって診療することがより分かりやすくなることが期待されます。

みんなでおしり体操

近森病院泌尿器科部長 濱口 卓也

9月9日、旭地区のこうち男女共同参画センター・ソーレにおいて「出張なんでも相談会 泌尿器科の巻」を開催しました。



前半は排尿障害のミニ講義と頻尿、尿失禁などをおうちで簡単に予防できる「おしり体操」なるものを参加者の方とともに実践しました。このときはサポートスタッフが参加者の方の前で「おしり体操」を実践、御三方には頑張ってくださいました。その後は個別に相談会を開かせていただきました。

人には相談しづらいおしりこの悩みも、こういった会を開くことで、身



近で誰もが悩んでいることと思って頂き、気軽に泌尿器科に受診いただければと思います。

はまぐち たくや

GIFT OF LIFE 移植を受けた子どもたちの作品展 いのちのおくりもの



▲8月4日～8月24日まで本館～外来センター通路で高知県腎バンク協会主催の作品展を行いました▼子どもたちの素直な気持ちが表れた作品に通路を歩きかうスタッフも足をとめ見入りました



お弁当拝見 65 母の手作り弁当



私のお弁当は、中学生の娘の分と一緒に日勤のときは母が作ってくれます。

昔から母は料理上手で出汁を取るなど、一からすべて手作りで。彩りも私では考えられないような工夫をしてくれて、弁当箱を開けるのが楽しみです。また匂いものを取り入れてくれます。いつも感謝しながら全部食べてしまって、体重がうなぎ登りです!!

近森病院 6A 病棟
看護師 岡崎麻衣子



が、これからもよろしくをお願いします。

おかざき まいこ



緩和ケアイベントのお知らせ 2018年11月13日午前9時30分～午後2時

癒しをあなたに

日時 11月13日(火) 9:30～14:00
場所 近森病院 外来センター3階
エレベーター前～渡り廊下

サブリエントや体操をためしてみませんか?
あの岡田芳子さんの「命のスープ」を食べてみませんか?
手のマッサージで気持ちほぐしてみませんか?
患者さんの作品(絵や写真)も展示しています。ごらんになってみませんか?

何か困っていることはないですか?

※主催者等々 近森病院 泌尿器科 緩和ケア委員会 主催 岡崎 麻衣子 看護師 土野 由美子 看護師

お気軽にご参加ください。

「癒しをあなたに」と題し、緩和ケアイベントを近森病院外来センター3階のエレベーターホールから渡り廊下で開催します。「緩和ケア」は身体や心の辛さを和らげるものとして必要なものです。いのちのスープの試飲、マッサージ、頭皮ケアなど準備していますのでどうぞお気軽にお立ち寄りください。

また、皆さまからの、手作り作品を募集しています。近くの看護師へお声がけください。

患者さん、ご家族のみなさまへ

求ム!
手作り
作品

手芸品や
工芸品
絵や写真
俳句

緩和ケアイベントで、みなさまの力作を展示します!
優秀作品は、ひろっぴ(病院情報誌)に掲載!
最寄りの看護師へお声がけください。お預かりします。
作品への思いやエピソードもぜひ教えて下さい。

～ 作品の送付をご希望される方へ ～
連絡先を書いたメモ等をいっしょにお預りしますm(*_*)m

緩和ケア委員会一同

ニューフェイス

①所属②出身地③最終出身校
④自己アピールなど

お酒の楽しみ方 2 モルトウイスキー編

ディーンストーンと紡績工場

ウォルトン・バー 川田 宏治

今回で紹介するディーンストーンは、18世紀後半に遡る古い紡績工場を利用して建てられた蒸溜所で、その貯蔵庫の天井は見事なアーチ型の美しい建物です。1965年創業のこの蒸溜所と紡績工場の共通点はどちらも良質の水を大量に必要とすること。またレンガ造りの建物はウイスキーの貯蔵にはうってつけであったことが再利用のキッカケにもなったのでしょう。

ティス川に魚道をもうけ水流を利用しタービンを回して全ての電力をまかない、余った電気を売電するなど環境問題への意識の高い蒸溜所でもあります。ハイランド南部スターリングにほど近いこの蒸溜所は映画『天使の分け前』にも登場し近年益々名前を知られ

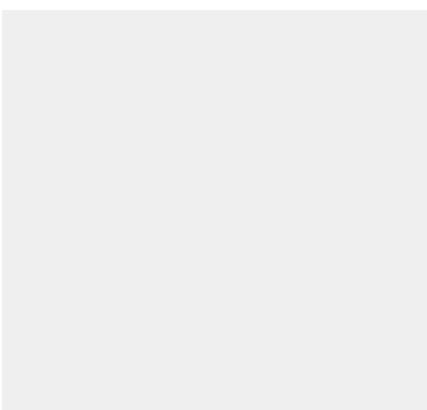
るところでもあります。ダンネージ式の貯蔵庫の(樽の上に板を置きその上に樽を積み重ねる方式)様子がうかがえるシネマです。

ノンピートで12年物やヴァージンオーク、18年物などがあります。比較的入手しやすく親しみやすい味わい、バランスの良いモルトは、すぐ南のローランドのモルトの影響を受けたおとなしさです。有機栽培大麦のみを原料として造られるオーガニックウイスキーで、1976年には平成天皇が皇太子時代に見学された蒸溜所でもあります。

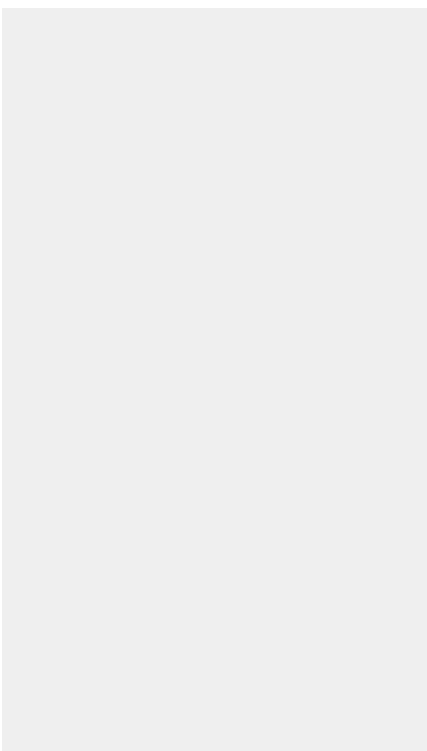


かわだ こうじ

人の動き 敬称略



おめでとう



2018年8月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	18,716人
新入院患者数	994人
退院患者数	1,036人
近森病院(急性期)	
平均在院日数	13.73日
地域医療支援病院紹介率	70.43%
地域医療支援病院逆紹介率	159.51%
救急車搬入件数	580件
うち入院件数	274件
手術件数	443件
うち手術室実施	298件
うち全身麻酔件数	192件

● 2018年8月 県外出張件数 ●

件数 39件 延べ人数 72名

編集室通信

秋分を過ぎ、中秋の名月を仰ぎながら、西日本豪雨災害や台風を思い出す。ダム^①の放流による被害の増大は原子力発電と同じく電力確保が目的の社会に警鐘を鳴らす。

稲刈り後の田の脇には彼岸花が咲き、虫の音に包まれながら月明りが人々を癒す光景は古今、変わらない。柿が色づき戻り鰻を食しながら「山装^{やまよそお}う」季節に下半期の備えを誓う。

変わり続ける近森会で 40 年

無理せず、できる人に任せる

本年 4 月 1 日付で勤続丸 40 年、技師長歴は同日付で 30 年目に突入した。近森会グループ約 2,000 人のなか、ほんの数本の指に入る職員歴の長さである。

10 人ほどだった臨床検査技師はいま、外部委託スタッフも合わせると 8 倍強の大所帯になった。検査の比重の重さが想像できるだろう。

近森病院は昭和 21 年の開院から 72 年。昭和 39 年に救急病院を定める省令が制定され、すぐに申請した近森病院が同年 6 月 30 日付で「救急告示病院」に指定されてからでも、すでに 54 年を経過した。その流れのなか、40 年を近森会スタッフとして過ごしてきた今村技師長。

「変わり続けてきた近森会。その流れに自分はあまり無理せず乗っかってきたのかな(笑)。自分のできないことは、できる人に任せる。それと、落ち込むことがあっても、こころの切り替えを早く…かなあ……」。今村さんは、いつもの穏やかな口調で、ここまで頑張れた理由を、こんな風に振り返る。

技師長としての心得

臨床検査部の大きな波は三つ。その第一波は、まず時間外や夜間の救急に、限られた人数でいかに正確迅速に対応するかが求められたとき。

第二波は生理検査を院内中心に、検体検査は外注でという対応が求められたとき。

そして、第三波。この完成はほんの最近、「建築 5 カ年計画」で時間外の検査体制をどう整え、スタッフの仕事の振り分けをどう行ない、業務の効率化をいかに図るか、だった。

今村技師長には、リーダーシップを発揮して皆を引っ張るといふ発想はあまりないようだ。「スタッフが変わったことはないか、体調はどうか、伝達

事項は行き渡っているかなど、皆が業務に集中できる体制を、全般にわたり裏方で整える」のが役割だと心得ている。

だから、「ここをこうしたらもっと良くなるとか、皆に声を出してもらえるよう、声の出しやすい雰囲気をつくることも自分の役割かな！」。

後方支援に比重がかかっているからといって、頼りない上司かといえば、むしろ逆。30 年の技師長のポストは、「しなやかで強靱な精神」を培ったようにも見える。平均年齢の若い集団で、ときにお叱りを頂戴するような場面もあるが、「スタッフに代わって、頭を下げるのも役割の一つと思っている」。

お叱りを受けたからといって、自分の沈んだ感情を周りに振りまくようでは半人前とも思っている。

「そういえば！」と、パンと手を叩く風に、「感情の起伏を激しく出してはいけないと、就職して最初に学んだように思う！ あ～懐かしい！」と、スッキリした表情で、ニッコリ。

花の癒やしパワーで充電

仕事では切ない場面もある。鬱々とした感情を翌日に残さないよう、一日の終わりには楽しいことを思い描くよう、意識的に努めている。

が、週末はやっぱり待ち遠しい。生け花教室に通うことを、かれこれ 15



▲「あぁ懐かしい…」1996 年 12 月刊『医療法人近森会 50 周年記念誌現代篇』より



▲整理整頓の行き届いた技師長室で、笑顔もこころもスッキリ。ベテラン技師長

年ほど続けてきた。花の咲き具合、枝の付き方ひとつ、種類は同じでも花の表情は様々で、その違いをじっと観察していると何だかこころが慰められるのだそうだ。

器の違い、花の表情、枝ぶりの面白さ、そんなことに思いを至らす余裕を持ち、その余裕を意識するうちホッとこころが和んでいる自分を感じるのだという。

週末にこんなひとときを持つことで切り替えができて、また新たな週も頑張る気力が湧いてくる。

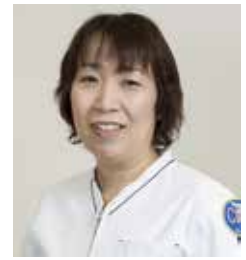
最愛の旦那様を 13 年の闘病生活のすえ見送ったが、「好きなことを、好きなとき、できるうちにやろうと、ずっと一緒にやってきたから、何にも悔いなくて、夫との日々はただただ懐かしく思い起こせる」のだとか。

それでも、ときどきは寂しくなる。そんなときは心優しい娘たちに励まされ、「よしよし、初子がんばれ！」と、自分で自分にエールを送る。

「あっ、そうそう。こころを癒やしてくれる最高の相棒は、チワワのプティちゃんだった」。プティちゃん、思い出してもらえてよかったよね！

事務能力の高さとこまやかな心遣い

近森会グループ
統括看護部長 岡本 充子



看護部には二人の秘書が配置されています。看護部秘書の仕事は多種多様で期日に追われるものもありますが、絶妙のバランスで業務分担ができてお

り期日に遅れることなく確実に業務を行ってくれます。

看護部秘書のもっとも大変で重要な仕事は、看護に関わるさまざまな届出書類の作成ですが、医事課と連携して段取りよく行ってくれ、とても助かっています。

秘書からこれはどうだろうと提案してくれることもあり、私たちが気づけなかったことを教えてくれる心強い存在でもあります。

二人のすごさはこうした事務能力だ

けではなく、心遣いもこまやかで、来客の方からもお褒めの言葉をいただくことも多く、どちらが欠けても看護部としては困る自慢の二人です。

おかもと じゅんこ

献血キャンペーン

ありがとうございました。

9月13日(木)に献血キャンペーンを開催しました。今回は76名の方にご協力いただきました。ありがとうございました。次回は来年2月に予定しています。

出張報告

「日本臨床細胞学会総会春期大会 in 札幌」 に参加して

近森病院臨床検査部
臨床検査技師 米谷 久美子



▲国内学会特別参加券

2月に行われた第1回近森会グループ学術集会でたくさんの方々の非常に素晴らしい発表のなかから、恐れ多くも最優秀演題賞をいただくことが出来ました。そして、なんとその副賞として「国内学会特別参加券」をいただき、今回、札幌で行われた日本臨床細胞学会総会春期大会に参加させていただき

ました。同じ病理検査室のメンバーである2名の共同演者として同行することになりました。

じつは、私自身北海道へ行くのが初めてであり、学会はさておき、何カ月も前から名所やグルメ、お土産などたくさん調べていましたが、実際は1泊2日という強行スケジュールとなっていました。それでも、なんとか北海道を味わいたいと、会場に着くまでの道のりを徒歩で回り、北海道庁とテ

レビ塔を横目にながめ、お昼はスープカレー、夜は懇親会で本場のジンギスカンをおなか一杯いただくことが出来ました。

本題である学会の話が後になってしまいましたが、今回の学会では「癌の早期発見の手法としての細胞診と新技術の融合」というテーマのもと、最新の技術、検査法などの紹介や細胞診の基礎的な知識、さまざまな施設の貴重な症例など、興味深い講演を聴くことが出来ました。また、シンポジウムでは当院におけるEUS-FNAでのROSEについての発表があり、当院で行っていることが全国においても評価されるべきことであると、強く感じる事が出来ました。

あっという間の2日間で、後ろ髪をひかれる思いで北海道を後にしましたが、とても充実していました。

こめたに くみこ

